

## 今日のみことば

### □ 8月13日(日) 創世記 32章

ヤコブの頭は、20年ぶりに会う兄エサウのことでいっぱいでした。問題の本質がどこにあるかを見失うとき、ただただ右往左往するだけです。

### □ 8月14日(月) 創世記 33章

ヤコブは兄エサウに対して恐れをいでしたが、彼自身が神によって変えられたとき、問題は解決されていました。彼らは涙の再会をしました。

### □ 8月15日(火) 創世記 34章

これはヤコブ家の醜聞です。この出来事はベテルへ帰ることを命じられた神への不従順によって起こった。シュケムに滞在したことによって、高価な代価を支払うこととなった。

### □ 8月16日(水) 創世記 35章

ベテルこそヤコブの長旅の出発点であり、終点でした。ヤコブの一族の間にあった異教の神々は取り除かれ、神は、ご自身のイスラエルとの契約を再確認された。

### □ 8月17日(木) 創世記 36章

ここでは兄エサウ(エドム)の歴史が述べられている。彼もまたアブラハムの子孫である。神はご自身の目的のためにこの民族を用いられ、摂理の御手をもって彼らを導かれた。

### □ 8月18日(金) 創世記 37章

これは、単に個人としてのヨセフ物語ではない。「これはヤコブの歴史」です。ヨセフがエジプトへ売られるのも、彼が宰相になるのも、神のご計画実現の、神の摂理のみわざです。

### □ 8月19日(土) 創世記 38章

ヤコブの子、ユダにまつわる不名誉な事件です。しかも救い主イエスに至るイスラエルの系図の中に起こったことです。人間は決して完全ではない、弱い。主の助けがけが必要です。

---

ろ ば No. 1828

2017年 8月13日  
日本バプテスト 立川キリスト教会  
牧師 大川 博之

---

ヨハネ19:30

イエスはぶどう酒を受けると、「成し遂げられた」と言い、頭を垂れて息を引き取られた。

イエスは十字架の苦痛の中で最後に「成し遂げられた」と言われて息を引き取られました。このイエスの「終わった」という語幹の一言が、イエスの十字架が、私たちの何であるかを、しっかりと伝えてくれるのでした。この一語はパピルスで書かれた税金の領収書に記載されている一語で、「それは領収されている」との語として用いられている言われています。イエスの十字架は、私たちの罪の一切の代価の支払いは終わりました、との領収書だと言うことで、イエスはなすべき仕事の一切が完了しましたと、天の父なる神さまにご報告された言葉です。

神さまは、すべての創造を終えられて、満足なさいました。その神さまの心を、逆なでしたのが人間です。神さまは人間をご自身に似せて、この被造物の一切を任せられました。人間は幸せでした。神さまはそれでも一人寂しくいる彼を見て、愛する者を与えて下さいました。その幸せいっぱいの人を見て、サタンは誘惑してきました。人はその誘いに乗って神さまとの約束に背き、幸せの絶頂から奈落の底に落とされたのです。これは人類の歴史です。これは私たちがずっと負っていかねばならないものです。私たちには二度と創造の初めに体験させていただいた、あの幸せいっぱいの日々は訪れてくることはないのか。その私たちの耳に聞こえてくる

のが、苦痛の十字架上での、イエスの口から発せられた「成し遂げられた」との言葉です。その罪の一切は贖いとられたとの宣言の言葉です。

人間は自分が犯した罪の故に、樂園を追放されました。それからの彼らの生活は、今をいかに楽しく幸せに生きるかでした。神さまとの関係回復の働きを見ることはできません。ますます彼らは神さまから遠く離れてゆき、神さまがもはや黙視することができないほどに墮落してしまい、ノアの洪水が起こります。今日の私たちの世界もそうではありませんか。私たちの中にどれほど神さまへの思いがありますか。自分の幸せ以外に、神さまのこと、隣人のことを思う人たちがいるのでしょうか。もしそうであれば、世界は確実に変わっているはずですよ。

イエスの誕生はそのような人間に対する、神さまからの言葉であることは明白です。神さまには我慢のならない人間の行為ですが、それでも造った人間を、神さまは愛しておいでです。私はそれが神だと思っています。ご自身に似せて創造されたのです。だから神さまは、しっかり人間は罪人だと指摘されるのではありませんか。どこまで神さまのご愛を踏みこむのか、その結果何が私たちを待ち構えているかを、イエスは語っておいでになりました。それでも神さまは、あなたを愛していると言われます。あなたの罪は贖ったと言われるのです。それでも私たちは神さまに背を向けるのですか。ペテロが問うてくる説教に「人々は心を刺され、私たちはどうしたらよいか」と尋ねてきたとき答えました。「悔い改めて、主イエスの名によってバプテスマを受けなさい」と（使徒2:14-42）と。しっかり主イエスを信じて生きることです。

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————  
黙示録 3:1-10 言はわたしのうちに

私たちが一番注意しなければならないのは、生きている証があるかということです。サルデスとフィラデルフィア教会に宛てられた手紙を通して、私たち自身を吟味されることは重要です。

サルデスの教会は、生きているのは名のみで、実は死んでいるといわれました。サルデスの町は要塞堅固で、そのために人々の油断が、外敵の侵害を二度も許しました。この町のクリスチャンたちにもその傾向があった。教会が勝利しなければならない相手は、反勢力ではなく、無感動、無関心、自己満足であった。

フィラデルフィアは小さな町で、教会は小さかったが、クリスチャンたちは忠実でした。主は彼らがこれからも主のために大胆に証し続けられる与えてくださると約束されました。主が求められるのは強力ではなく、忠実です。



Read God's Word.

次週の聖書・説教	ルカ23:44-49	信じてゆだねる
----------	------------	---------